

## 暖地におけるルタバ栽培の一考察

児玉重方\*・重永隆\*

KODAMA, S. and SHIGENAGA, T. A Consideration on the Adaptability of Rutabaga in the Warmer District.

ルタバは北欽地方を始め我が国では北海道で夏作として栽培され冬期間の飼料として利用されている。

近年我が国各地で試験が行われているが、その結果、他の根菜類に比較して貯蔵力があり、乾燥歩留が高く、栄養価の高い事は認められているが、生育期間

が長く、尙収量の面から見ても必ずしも適作物であるとは認められていない様である。私達は1953年から55年に冬期間比較的温暖である宮崎県の沿岸地帯に於て、冬作として試験を行つたので発表する。

## 成績及び考察 1. 冬季間の気温と根の肥大について

第1表 根 径

1953年度				1954年度				
調査月日	播種期	9月21日	10.2	10.3	調査月日	播種期	9.5	9.30
	1月11日		99.9 mn	83.7		—	1.20	
1.31		93.5	87.4	72.6	2.16		112.4	100.5
3.15		116.6	110.4	100.1	3.15		—	121.2
4.13		137.8	126.0	114.2	—		—	—

(註) 供試品種 White fleshed neckless 直播 畦巾 2.0 尺 株間 1.0 尺  
肥料 堆肥 300 貫 硫安 16 貫 過石 12 貫 塩加 4.5 貫

第2表 気 温

項目	月 旬	11			12			1			2			3			4		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
最 高		20.8	19.3	17.8	16.1	14.8	13.7	12.8	12.7	12.2	12.2	12.9	14.2	14.6	15.8	17.2	18.9	20.3	21.7
最 低		10.0	8.0	6.2	4.6	3.2	2.0	1.4	1.6	1.6	1.5	1.9	3.9	4.6	5.3	7.0	8.8	10.7	12.3
平 均		15.1	13.4	11.8	10.0	8.7	7.6	6.8	6.8	6.7	6.7	7.2	8.5	9.7	10.7	12.2	14.0	15.6	16.9

播種後12月上旬までは旬別平均気温が10℃以上で根部の肥大も進むが、12月下旬より2月下旬までは気温が10℃以下に下り肥大も遅々として進まない

様である。尙3月以降になり、気温の上昇にともなつて急に肥大する。

## 2. 葉数と莖葉重の変化

第3表 葉数と莖葉重

調査月日	播種期	9月21日		10月2日		10月13日	
		葉 数	莖葉重	葉 数	莖葉重	葉 数	莖葉重
1月11日		12.7 枚	90.9 mn	11.3 枚	58.1 mn	— 枚	— mn
1.31		13.3	61.6	12.0	46.1	14.1	54.4
3.15		16.9	55.4	13.2	27.4	15.4	45.3
4.13		23.0	70.4	22.2	33.8	21.3	45.8

(註) 葉数は生葉数 莖葉重は1株当り その他第2表と同じ

葉数は各播種期とも 1 月に 12~13 枚，3 月中旬に 15 枚内外で増加は緩慢であるが，その後抽苔にともない急速に増加し，4 月中旬の開花前には 22 枚位ま

で達する。葉数と葉重の関係は，葉数は生育日数の長くなるにつれ多少増加するが，莖葉重は逆に減少する傾向があり，抽苔期になると僅かに増加する。

### 3. 播種期と収穫期並に生育日数

第 4 表 生育日数と反当収量 (その 1)

A 生育日数 B 反当葉重 C 反当根重 B+C 反当全収量

収穫期	9 月 21 日 播				10 月 2 日 播				10 月 13 日 播			
	A	B	C	B+C	A	B	C	B+C	A	B	C	B+C
1 月 11 日	112 日	424 貫	700 貫	1,124	101 日	284 貫	439 貫	723	一日	—	—	—
1. 31	132	332	867	1,199	121	255	550	805	101	195 貫	326 貫	621
3. 15	175	223	1,270	1,499	164	141	997	1,138	153	217	675	892
4. 13	204	314	1,917	2,281	193	166	1,502	1,668	182	232	1,180	1,412

(註) 第 2 表に同じ

総収量はまったく根の肥大に比例し，反当 1,000 貫以上に達するには 9 月 21 日播きで 110 日を要し，播種期の晩くなるにつれて，生育日数を長く要する。

第 5 表 生育日数と反当収量 (その 2)

播種期	収穫期	生育日数	葉重	根重	計
9 月 5 日	1 月 20 日 2. 16	137 日 164	426 貫 212	870 貫 1,056	1,296 貫 1,268
9 月 30 日	2. 16 3. 15	139 166	261 216	929 1,383	1,190 1,599

(註) 1954 年度その他第 2 表に同じ

9 月 5 日，9 月 30 日播き各区とも生育日数 130 日で反当 1,200 貫以上になるも，9 月 5 日播きの場合，生育日数を 30 日延長してもこの時期が厳寒期に当

り収量の増加は認められない，しかし 9 月 30 日播は 130 日から 160 日に延期すると反当 400 貫以上の増加が認められる。この事実よりして，収量は厳寒期 1 月~2 月には増加せず，気温が多少高くなるにつれ急に増加する事が認められた。

### 4. むすび

ルタバガは他の根菜類，特に家畜カブ等に比較すると極めて晩生であり，12 月~1 月の収量は家畜カブには及ばない，しかし利用時期を遅くする事によりその特性を發揮出来るので，他の作物と上手に組合せ，尚生育期間特に在圃日数を短くするため移植栽培を行い，耕地の利用度を高める様に考慮するならば，ルタバガは暖地に於ても良質の飼料用根菜として適するのではないかと考える。